

子どもたちの虫歯が減少

和寒町では平成28年度からフッ化物洗口を保育所・小学校で希望する児童を対象に週1回実施しており、令和2年度は平成26年度と比較すると6分の1にまで虫歯が減少しています。

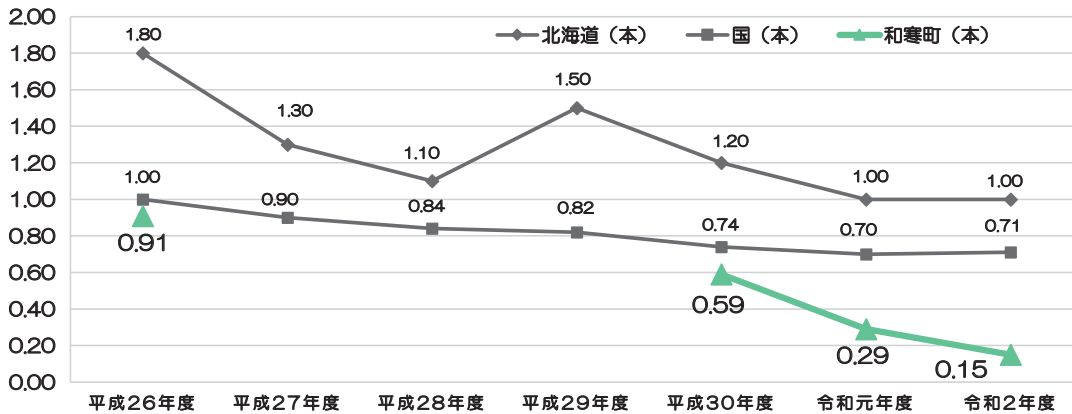
学校保健統計調査による、12歳児のむし歯の状況結果では、フッ化物洗口を実施後2年経過した平成30年度の比較で、中学1年生1人の平均むし歯本数が、全道平均1.2本に対し和寒町は0.59本と少なく、さらに令和2年度では全道平均1.0本に対し0.15本という結果が出ています。年々むし歯の平均本数が減っていることから、フッ化物洗口の導入効果が表れていると思われるので、今後も継続した取り組みを行ってまいります。

また、小学校で希望して実施した児童は、令和2年度74.1%となっています。



12歳児のむし歯の状況

出典：学校保健統計調査



※和寒町は平成27年度から29年度は調査未実施となっています。

平成26年度全国数値より約0.1本虫歯が少ない状況でしたが、令和2年度は全国数値より0.56本も少なくなっています。

●フッ化物の効果

- ①虫歯になりかけて溶けだしたカルシウムをもとにも戻す（再石灰化）作用を促します。
- ②歯の表面に“酸”に溶けにくい結晶を作り出し、歯の質を丈夫にします。
- ③むし歯菌の活動を抑え、“酸”を出しにくくします。

農村生活体験を終えて



6月から始まった農村生活体験が10月末で終了しました。今年度は佐川まりこさん、坂口美洋子さんの2名が、受入れ農家さんで農業実習を行い、和寒での生活を体験しました。

農業の大変さ、楽しさを実際に体験でき、今後の生活に活かして行きたいと話していました。佐川さんは都合により、少し早く離町されましたが、坂口さんは冬期間も引き続き本町に滞在し、冬の農村生活を体験していきます。